

▶沿道のモミジを愛でながら、元気にウォーキング。終了後は豚汁やおにぎりなどの販売も行われ、充実したイベントになりました。



錦秋の小岱山、鮮やかな山を楽しむ

～第6回紅葉狩りウォーク～

11月23日（火）、府本校区いきいき小岱会の主催で、第6回紅葉狩りウォークが開催され、約100人が参加しました。
小岱山林道沿いには、平成11年度から府本地域安全パトロール隊や有志によっておよそ800本のモミジが植樹されていて、当日はちようど見ごろを迎えていました。
参加者は晴天の下、色づいたモミジを眺めながらおよそ5キロの道のりをウォーキングし、深まる小岱山の秋を楽しんでいました。

市民の健康づくりへの貢献が認められました

～荒尾市健康づくり推進員協議会～

11月25日（木）、荒尾市健康づくり推進員協議会の秋富しつゑ会長と原田恵子副会長が市長を訪問し、熊本県健康づくり県民会議表彰の受賞を報告しました。
同協議会が平成15年度から実施している高齢者対象の「体力アップ体操教室」によって、市民の健康に多大な貢献をしたことが認められました。現在会員数は34人で、市内19カ所で体操を普及しています。
会長の秋富さんは「表彰を励みに、一人でも多くの人が喜んでくれる教室を目指し、一層がんばりたい」と話しました。



◀秋富しつゑさん 原田恵子さん。秋富さんは体育指導員として、2030あらゆる明後都戦略事業の「ピート・コア・ウォーキング」の指導でも活躍中。

題字を書きました

習字は5年生から習っています。休み時間は友達とサッカーをしています。興味があるのは戦国時代で、武将では前田慶次が好きです。中学生になったら吹奏楽部に入ろうと思っています。将来の夢は、考古学者になって昔のことをもっと調べたいです。



荒尾第三小学校 6年 栗原 拓巳さん

＊おもな内容 main contents

荒尾市公営企業の財政状況を公開します	4
「余田末人 回顧録」を頒布します	9
荒尾市 10大ニュース	14

声の広報 [文字による情報入手が困難な障がい者のための音声訳 (録音版) 広報誌] (福祉課 ☎ 63-1406)

荒尾市ホームページ (<http://www.city.arao.lg.jp>)

携帯電話専用サイト 二次元コード
<http://www.city.arao.lg.jp/defaultM.aspx>

※通信費は閲覧者の負担です



中学生の税についての作文

平成22年度中学生の「税についての作文」(税を考える週間実行委員会)において荒尾・玉名地域の中学生から2,461編の応募があり、本市からは次の5人の作品が優秀作品に選ばれました。優秀賞の2編については『広報あらお』で紹介します。

市内の受賞者の皆さん

- 南九州地区納税貯蓄組合連合会優秀賞 荒尾海陽中学校3年 石川 未来さん
- 南九州地区納税貯蓄組合連合会優秀賞 荒尾第四中学校1年 牧 鈴奈さん(次号に掲載)
- 玉名荒尾地区青色申告会連合会長賞 荒尾第三中学校3年 栗原 佳緒里さん
- 荒尾市長賞 荒尾第三中学校3年 椛島 彩加さん
- 荒尾市教育長賞 荒尾海陽中学校3年 荒木 千愛さん

南九州地区納税貯蓄組合連合会優秀賞

「税金の高い国の幸せ」

荒尾海陽中学校三年 石川 未来

高速道路無料化の社会実験が始まった。開始初日の夜のニュース番組で、あるおばあさんがインタビューに答えていた。

「無料は嬉しいんだけどねえ。もう渋滞とかしちやって困るでしょ。それに、無料化しちやったら、どうせ消費税が増えるし・・・」

消費税。私たち中学生でも払っている一番身近な税だ。だが、消費税を含め税金全般に対するイメージは、あまり良くないと思う。消費税が増える話を持ち上がると、国民は口をそろえて反対する。私もその一人だった。しかし、私はある国の税制度を知って、税に対する考えは百八十度変わった。

そのある国とは、スウェーデンである。スウェーデンは、消費税二十五パーセントと世界一で、国の歳入内訳



の九十パーセントを税金が占める。消費税五パーセント、歳入の税が占める割合四〇パーセントの日本とは大きな差だ。こんなに税金がとられては国民がかわいそう、と誰もが思うだろう。

だが、スウェーデンの人々は、それを苦に感じない。なぜなら、まず教育費がいらぬから。授業料や給食費は国が負担し、制服やランドセルは不要、教材は無償供与される。さらに学校は少人数学級で、一学級二十人に教員一・五人と、身につきやすい環境の中で学習ができる。そのため、塾に通う子供がいぬのだ。次に、暮らせる環境が整っていることである。書籍を例に上げると、新聞は無料で街頭で配られ、雑誌などは近くの公共図書館に備えつけてある。つまり買わなくとも、不自由なく生活できるのだ。さら

には、生命保険も公的制度が用意されているから、民間保険にわざわざ加入する必要がないという。なんと住みやすい国だろう。

私はスウェーデンという国を知って、税のあるべき姿を学んだ。税は国を豊かにするため、住みやすくするためにあるものである。私はスウェーデンのような税金の使われ方をするのなら、いくら消費税を払っても惜しくないと思う。高速道路無料化と消費税増税どちらが国が豊かになるか、天秤にかけるべきだ。そして日本政府は、もう一度税の使い方を見直さなければならぬと思う。

スウェーデンの人は、みなこう言うらしい。「貯金をする意味がわからない。」確かにそうだと思った。スウェーデンは収入の半分以上を税金として取られていき、手元には貯金するような額のお金は残らない。しかしその分、医療や教育のお金はほとんどかからず、安心して暮らすことができる。つまり「貯金ができない」のではなく、「税金で全部まかなってくれるから、貯金するお金があったら遊んだ方がいい」という考えなのだ。

国民みんなが将来におびえ、貯金をしながら生活を立てている、消費税五パーセントのこの国は、本当に幸せなのだろうか。